

電車を使うと、札幌駅から30分以内で、到着できます。札幌市内の物件が高騰しているため、札幌からアクセスの良い小樽市内でも、比較的地価が安価な銭函がベッドタウン化していて、人口が減少している小樽市ですが、銭函はあまり減少していません。

宿坊を始める上で、一つ目の要因は、このアクセスの良さです。それと、ビーチがあり、近くにはサーフスポットもあり、また登山も出来るという立地条件です。風光明媚ですし、海も山も楽しめます。若者も老人も楽しめる場所です。この自然環境も皆さんに知って欲しいと思



宿坊を始めようとしているお寺の試み

～ 海に見える宿坊（開業前）取材しました ～

浄土真宗本願寺派総合研究所
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

北海道小樽市銭函。札幌から快速で20分ほど。銭函駅のすぐ近くに、今回の取材目的である光超寺さんはある。いつもは、顕著な活動がすでに行われているお寺を取材することが多いが、今回は「宿坊」を始めようとしている光超寺さんを訪ね、ご住職である河崎遵英さんからお話を聞いた。

始めようと思ったきっかけは外国の方の来訪

〈宿坊を始めようと思ったきっかけは、何だったのですか？〉

「元々、今のように法律が出来る前に、外国の方が3組、お寺に泊めてほしいとやってきました。また、宿泊ではなかったのですが、仏教ブームで仏教に関心のある女性がやってきたこともありまし

た。ネットの時代で、お寺の情報が出ていると、それを見て、遠くから人が来てくれることを実感しました。それと、銭函の知り合いが民泊をやっているのです。それを見て、あー、これならうちでも思ったことも、きっかけとなりました」

お寺の周りの自然の豊かさを活かすために

〈銭函駅に着いて、町の美しさを感じましたが、立地も宿坊を始める要素とな

っていますか？〉

「まず銭函は、札幌から近いんです。

っています」

ご縁を大切にするという理念

〈宿坊という活動を選択されたのはなぜですか？〉

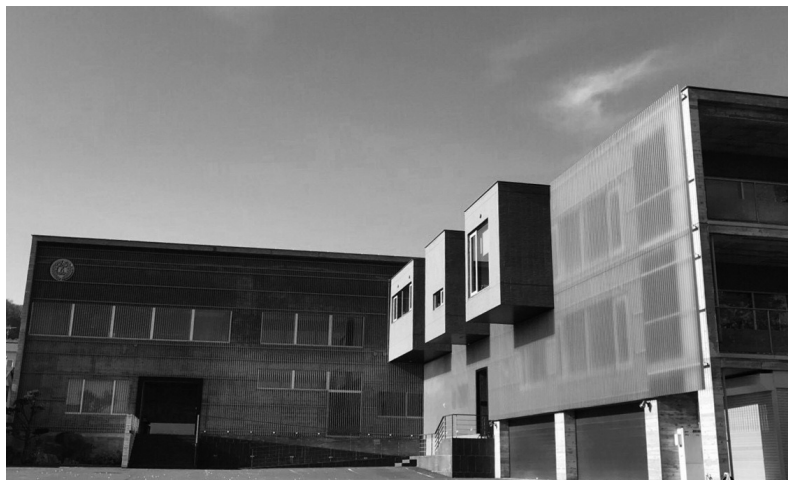
「まず、昔のような護持が継承されなくなっているため、寺の収入は減っているという問題があります。法務も減っています。そんな中で、〈新しいご縁〉を大切にしていきたいと思っています。そのため、ライブとか講演とかもやっていきます。多目的に使用できる本堂なので、

そこを貸しています。お寺って、使ってもらうこと、来てもらうことが大切ですよ。ただ立派な伽藍があるだけではダメで、それを活用する人がいて、お寺の価値は上がってくるのだらうと思います。それに、ここはとても良い所です。他の地域から来ていただけると地域の方々も喜ばれるだらうと思います」



現代的で伝統的なお寺という縁

〈到着すると、お寺の威容に驚かされます。ビックリします。とっても素晴らしいデザインです〉



「あるきっかけがあつて、北海道の建築デザイナー中山真琴さんと知り合いました。世界的に活躍されている方で、その方にデザインしていただきました。デザインしていただく中でポイントとしたのは、現代的であり伝統的であるということことです」

〈確かに、御本堂、特に内陣は伝統的な造り。しかし、外側はモダンで、その二つが見事に融合していますよね。目の

葬儀をするお寺であることが利点に

〈建物を拝見すると、本堂の周囲に宿泊できる場所がありますが、こうしたスペースを作られた理由は何ですか？〉

「それは、簡単な理由なんです。この地域は、まだお寺で葬儀をします。葬儀をしますから、宿泊されるわけです。その方々のために、宿泊できるスペース、

肥やしになりました〉

「先ほどの中山さんの現代的な建築と、宮大工の技術が一体となるように依頼しました。ただ現代的だとしたら、お寺へ来る人が失望するかも知れませんか。また伝統的な造りには、意味がありません。その一つ一つを見ていただきながら仏教の話をするようにしています。すると、とても喜ばれます。仏教に『興味』を持つている人は沢山いると感じているのです。その『興味』が入り口になってくれたらなあと思っています」

シャワーを浴びられるスペースなどが作られています。宿坊をやる予定がない時に建てたのですが、結果的に、こうした構造にしたことで宿坊をやりやすくなりましたね」

まず、書類作成が大変

〈いざ、準備を始めて、大変だなあと思ったことはありましたか？〉

「とにかく書類を整えるのが大変でした。一つは宗派に提出する資料が大変。それに加えて、行政に届ける資料を整えるのも大変でした。とても、お寺だけではできません。行政書士さんにご協力いただき、何とか市に認可を受けてもらえるところまで来たような状況です。ここで、めげる人が出てくるのではないでしょう。ちなみに書類を整えるためには10万円以上が必要です」

「それと、うちは大丈夫だったのですが、古い木造建築の場合は、非常口とか消防法のことなどが課題になってくると思います。あと、どのような形態にするかで負担が違います。うちは泊まるだけの宿坊です。これは、一つの方針です。近くにコンビニや食事のお店があるので、食事をこちらで用意する必要はあり



ません。食事を提供するような宿坊だと、保健所関連の許可が必要となつてきます。やはり、お寺を純粹に楽しんでもらうなら、お話をしたり、お経を経験し

ていただいたりする方が大事ではないかと考えています」

【取材後記】

このような感じで、最初の取材が終わりました。お寺に人が来てもらえるように、お寺は伽藍が立派なだけではだめだという住職の強い思いを感じた取材でした。それから、住職はものすごく日焼けされています。「あれ？農作業？」と思つたら、なんとサーフィン歴36年の猛者^{もき}。お話を聞く中で、外の人と繋がる^{つな}ことを喜びとされていることを感じましたが、それは、サーフィンなどの活動を通じて地域の方々と連携されていることもあるのかなあと感じました。

今回の取材は、これまでと趣向が違います。今回は始まる前の話です。この号が出る頃には、宿坊は始まっています。ご住職には、継続して取材させていたいただくことをお願いしました。「つづき」にご期待ください。
(平成30年11月)